

第10回 オンライン教育推進で忘れてはならないこと

感染症と歴史

新型コロナウイルス感染症の拡大にかかわって、歴史を見直すことが多くなった。世界史においても日本史においても、今までの自己の学習履歴は、多くは権力闘争の歴史を概観することであり、せいぜいその因果関係を考察する程度であった。しかし、感染症という切り口で歴史を見ていくと、感染症がいかに大きな影響を与えたかが分かってきた。

山川出版社の『詳説 世界史研究』を読むと、アテネがスパルタとの戦い敗れたペロポネソス戦争に感染症（疫病）が関わっていることがさりげなく記述してある。アテネはペリクレスの指導の下に市内に立てこもりスパルタを迎え撃ったが、そのペリクレスは疫病で命を落とし、人口が密集したアテネ市内で多数の市民も疫病で命を失ったのである。私はスパルタの軍事力がアテネを圧倒したと思っていた。

『感染症対人類の世界史』（池上彰・増田ユリヤ）にはペストの流行で教会の権威が失墜し、それがルネサンスや宗教改革につながったとの記述がある。ニュートンもペストを逃れて故郷にもどって「万有引力の法則」を発見したらしい。こうした認識をほとんど持たずに歴史を学んでいた方は多いのではないだろうか。歴史を感染症の視点で見るのが大切であるように、教育も多面的に見ていくことは必要である。

個別最適化学習という媚薬

新型コロナ感染の流行に伴って学校教育の場ではオンライン化が進み、さまざまな場面でのデジタル化やICT化が追究されている。そのことにより近代学校の様相である「一斉授業」「同一空間」「同一教材」「同一年齢」は解体していくだろう。それは求めていたことだ。しかし問題は、どの道筋で解体していくのかである。

個別最適化学習への取組みが喧伝されている。この流れは止められないと思う。しかし、この個別最適化学習という媚薬は、個別最適化される環境というものが必要である。端末はあるのか、ネット環境はどうなのか。社会的格差が広がる中で「身の丈」が求められてはいないのか。そもそも個別最適化学習は、AIの支配に屈するプロセスと言えなくもない。AIに関しては、「車いすの天才科学者」と言われ、2018年に亡くなったホーキング博士が「AIは自らの意志を持つようになり、人間と対立するだろう。AIの到来は人類史上最善の出来事になるか、または最悪の出来事になるだろう」と言っている（博士の遺言）。AIがバラ色の未来だけを用意しているわけではない。そうした認識をどこかに持っていたい。

経済学者で思想家のジャック・アタリは、大手IT会社のいわゆるGAFAsの支配が進むと気候変動や貧困問題に誰も取り組まなくなると指摘している（2019年「東京会議」）。つまり、企業が世界を支配すると利潤追求が主になり、「公共性」というものが喪失していくのである。

教育の公共性

教育の商品化が極度に進んでいく可能性もある。経済産業省が提起する「EdTechによる未来の教室」に依拠して発言する人が増えている。しかし、私が最も危惧するのは「民間教育と公教育の壁」を溶かしていくのを是とする論理だ。民間教育という名の市場原理が公教育を崩壊させないか。通信教育にかかわっている者にとって、株式会社立高校であったウイッツ学園高校の就学支援金不正受給問題は忘れられない。「公共性」を失った企業の論理は利潤を求めて暴走する可能性がある。

「社会とシームレスな『小さな学校』」というのも気になるところだ。一見、「学校化社会」批判にもなっているようだが、「小さな学校」は「小さな政府」を想起する。新自由主義的な言葉がさりげなく

使われていないか。新自由主義の流れである構造改革によって郵政民営化が行われたが、当時は異議をとなえる人はそう多くはなかった。効率と成果が求められることを是としたからだ。しかし、民営化は郵政の不祥事を起こす源泉ではなかったのかという検討は必要だろう。急激な変化は大切なものを置き去りにする可能性がある。

先行研究をリスペクトしながら新規性を求めていく。これは研究するということの大切な道筋だ。しかしながら、教育の分野では留まることをしらない「教育改革」によって、かつてのスタイルが全否定される。チョーク&トークから脱却するのはいい。しかし、全否定してアクティブ・ラーニングに飛びついて、「深い学び」が忘れられては確かに困る。オンライン教育も同じことである。

「オンライン教育などの ICT を学校に導入しようという声が日本では今後高まるでしょう。ただし進め方によっては、そのせいで不平等が拡大する可能性があります。ICT 化の影響をきちんと調査すべきです」とは英オックスフォード大学の苅谷剛彦氏の話である（2020 年 6 月 4 日付「朝日新聞」）。このことを常に念頭に置かないと、「最悪の出来事」（ホーキング博士）が用意される危険性があると思う。

手島 純（星槎大学）